

渋沢栄一が1万円札になるまで

主演：しぶさわくん



1 紙(洋紙)を作る場所を探していた渋沢栄一は水のきれいな王子を気に入り、工場をつくりました。



2 渋沢栄一が王子に工場をつくったことで、隣に国の工場もできて、お札の紙がつくれ始めました。



3 紙がたくさん作れるようになり、生活が便利に! 教科書なども王子でつくり始めました。



4 洋紙の産業の他、様々な形で近代日本の発展に貢献し、1万円札の顔に!



北区近代化産業遺産ガイドマップ

本書紹介の北区王子の産業遺産や周辺の関連史跡、名品などを巡るガイドマップ。WEBサイトでも公開中!! こちらもあわせて読んで王子の街を散策しよう!!

▶各施設の問い合わせ先はQRコードから確認できます。





洪沢栄一
(1840~1931)
洪沢史料館 所蔵

1 万円札に描かれた人物は、これまで〈聖徳太子〉と〈福沢諭吉〉の二人だけでしたが、2024(令和6)年度上期からの新一万円札の肖像は「日本資本主義の父」とも称される〈洪沢栄一〉になります。

そんな洪沢栄一は、日本の経済を發展させ、産業を近代化に導きましたが、これらの足跡をたどってみると北区の産業遺産の存在が見えてきます。「洪沢栄一が1万円札になるまでの物語」を追いながら、今も大切に語り継がれる王子の産業遺産施設の魅力を再発見してみましょう。



ガイドキャラクター
しぶさわくん

洪沢栄一翁の考えや活躍を現代に伝えるためにやってきた存在。シルクハットとステッキがトレードマーク。学ぶことが大好き! 産業遺産についてみんなと一緒に楽しく学びたい!!

北区王子の産業遺産



洪沢栄一は、「日本資本主義の父」と呼ばれるように、日本経済を牽引する企業の創立・育成に大きく貢献した人物です。その数、生涯にわたり約500社。さらにおよそ600もの福祉・教育などの社会公共事業、また民間外交にも尽力しました。

1840(天保11)年、現在の埼玉県深谷市の農家に生まれた栄一は、24歳で一橋慶喜(15代将軍徳川慶喜)に仕官。27歳でフランスへ渡航、欧州の先進技術、社会経済制度などを学びました。帰国後、29歳で明治政府民部省へ出仕し、貨幣制度、銀行制度の立案などに関わりました。



フランス時代の栄一
洪沢史料館 所蔵



43歳の栄一[1883(明治16)年]
洪沢史料館 所蔵

33歳で官僚を辞め、実業界に踏み出すと、目覚ましい活躍を続け、1931(昭和6)年、その生涯を閉じました(91歳)。

栄一が暮らした北区王子には、その活動にまつわる5つの施設が「近代化産業遺産」として認定されています。「よりよい社会をつくる」そんな栄一の意志が受け継がれた北区王子の産業遺産をめぐるながら、そのメッセージに思いを馳せてみましょう。

第1話

1875(明治8)年

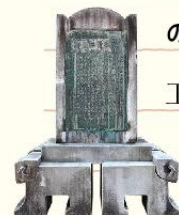
王子で抄紙会社が開業



フランスから帰国後、栄一は日本を近代化するため、知識や情報を共有する新聞などの印刷物の普及が重要だと考え、抄紙しやし会社の設立を主導し、①物流に最適な石神井川の水運、②製紙工程に必要な千川用水の良質な水、③原料のボロ布の集積地・紙



抄紙会社開業式 紙の博物館 所蔵



の消費地でもある東京近郊という立地、などの理由から王子に抄紙会社の工場(後の王子製紙王子工場)を建設し、洋紙の国産化を目指しました。明治通り沿いの工場跡地には「洋紙発祥之地」の碑があります。

洋紙発祥之地碑



王子に残る
関連施設

紙の博物館



和紙・洋紙の両面から、紙の歴史・文化・産業を紹介する、世界でも数少ない紙専門の博物館。製造工程、種類や用途、様々な紙製品の展示のほか、紙の関連書籍も図書室で一般公開しています。



しぶさわくんMEMO

ふだん使っている紙がどのように作られるかを学べるよ!
週末は「紙すき教室」でハガキ作りが体験できる!!
参加して自分だけのオリジナルハガキを作ってみよう!





1877(明治10)年

王子から国産紙幣が誕生

1871(明治4)年、大蔵省紙幣司(現国立印刷局)が創設され、栄一は初代紙幣頭(長官)に就任します。当時の紙幣は、印刷技術が未熟だったため、ドイツやアメリカに製造を依頼していましたが、明治政府は国産化へと舵を切り、現在まで国立印刷局が製造



明治時代の国立印刷局 提供:国立印刷局

しています。1876(明治9)年、抄紙局(現王子工場)を設置し、最初は栄一が設立を主導

した抄紙会社工場の一角を使って紙幣用紙の研究開発を重ねました。翌年、国産第一号の近代的な紙幣を誕生させました。



国産第一号の近代的な紙幣 提供:お札と切手の博物館

王子に残る
関連施設

国立印刷局 王子工場(お札と切手の博物館)



現在は印刷工場として、切手などの製造を行っています。

隣接する「お札と切手の博物館」では、お札や切手の歴史や偽造防止技術などの解説をしています。



しぶさわくんMEMO

ここは世界のお札が150種類以上並ぶ博物館。
一、十、百、千、万……ひゃ、100兆!? これ本物?
詳しくは博物館で調べてみよう!



「経済混乱時のジンバブエ100兆ドル」
お札と切手の博物館 所蔵

1904(明治37)年

教科書が和紙から洋紙に



1890(明治23)年頃、紙の原料がボロ布から木材パルプに代わり始めました。

1903(明治36)年、小学校教科書の国定制度が確立され、教科書は和紙から洋紙に切り替わり、翌年以降、段階的に国定教科書に統一されることとなりました。

1909(明治42)年、国定教科書を翻刻発行する会社として、東京書籍株式会社ほんこく堂が設立されました。



国定以前の教科書
1873(明治6)年



国定時代の教科書
国定1期(明治37-42年)

出典:東書文庫ホームページ
<http://www.tosho-bunko.jp>『所蔵資料の概要』

※翻刻: 書物を原本のままの内容で再び出版すること。

王子に残る
関連施設

東書文庫



1936(昭和11)年に開館した日本初の教科書図書館。鎌倉時代から現代に至るまで、およそ16万点を所蔵。そのうち76,420点は国の重要文化財に指定。アル・デコ様式の建物にも注目です。



しぶさわくんMEMO

ここにはいろんな時代の教科書が展示されてるよ。
おや? 文章が黒く塗りつぶされているのは何故?
東書文庫に行って館長に聞いてみよう!



墨塗り教科書『ヨミカタニ』 出典:同上

2007(平成19)年

王子の施設、近代化産業遺産に認定

2007(平成19)年、経済産業省『近代化産業遺産群33』の一つのストーリーとして、北区王子の5箇所が近代化産業遺産に認定されました。

【洋紙の国内自給を目指し、北海道へと展開した製紙業の歩みを物語る近代産業遺産群】



HERITAGE OF INDUSTRIAL MODERNIZATION

- 渋沢史料館(晩香廬/青淵文庫) ● 紙の博物館
- 国立印刷局王子工場(お札と切手の博物館)
- 国立印刷局東京工場 旧滝野川工場 ● 東書文庫



渋沢史料館(晩香廬/青淵文庫)



常設展示「渋沢栄一をたどる」



晩香廬

どちらも建築家・田辺淳吉の作。内外の賓客を迎える場として使用されました。内部も見学可能です。



青淵文庫

旧渋沢庭園に残る国指定の重要文化財
写真(3点)提供: 渋沢史料館

かつて栄一が住んでいた王子飛鳥山の旧渋沢邸跡に建ち、栄一の生涯と事績に関する資料を収蔵・展示しています。



しぶさわくんMEMO

晩香廬は喜寿(77歳)、青淵文庫は傘寿(80歳)と子爵に昇格のお祝いとして、渋沢栄一に贈られたんだ。両方の建物共、どこかにお祝いを意味した「寿(壽)」の文字があるよ! 探してみよう!



2024(令和6)年

渋沢栄一、新一万円札の顔に



かつて栄一は、紙幣の肖像の選考に落ちたことがあります。当時の技術では、「髭がないと偽造されやすい」という理由でした。時代を経て今回、3Dホログラムという最先端の偽造防止技術が世界で初めて導入されました。公益のため日本を近代化に導いた栄一の多大な功績とその精神は、より一層世に知られ、伝わることとなりました。



国立印刷局 東京工場 旧滝野川工場



国民経済に不可欠な日本銀行券(昭和6年操業開始)をはじめ、現在は政府情報の公的な伝達手段である官報などの製造や情報サービスの提供を行っています。WEBサイトから、VRでオンライン工場見学が体験できます。



赤煉瓦酒造工場

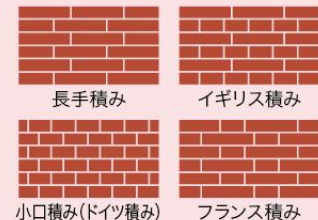
旧醸造試験所第一工場



1904(明治37)年、国による醸造技術の研究・発展を目指して設立。明治を代表する建築家・妻木頼黄が設計した建築物で、明治の貴重な産業遺産として国の重要文化財に指定されました。栄一が設立した日本煉瓦製造株式会社のレンガが使用されています。

しぶさわくんMEMO

レンガの積み方にはいろんな種類があるよ! 建物の構造に合わせて積み分けされているんだ。見学に行ったら確かめよう!



※この工場では「フランス積み」は使われていません。